

難聴学級ベルだよ



2025 年（令和 7 年）7 月 22 日（火）

自分を知ってもらおう！「セルフアドボカシー」

「セルフアドボカシー」ということばを知っていますか？これは、**自分に必要なサポートを得るために、自分のことを周りに説明して理解を得ること**です。自分の聞こえの状態を理解し、必要な支援を求めることは、その子自身の生きやすさや、自己発揮にもつながっていきます。園では以下のことを意識して、セルフアドボカシーの力をつけていけるよう取り組んでいます。

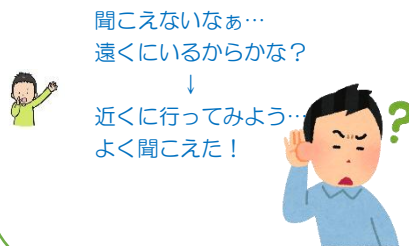
自分の「きこえ」について表現する

- 音や声が、自分にとって小さすぎるのか、大きすぎるのか、ちょうどよく聞こえるのか…自分の力で表現する



きこえにくいときの改善策を考え、一緒に試す

- 話し手からの距離、雑音が入りやすい環境などに気付き、より聞こえやすくするための方法を一緒に考えて試す



補聴器や人工内耳の管理

- 補聴器や人工内耳が外れそうになった時に、自分でつけ直す
- プールなどで外したときは、保管容器に入れる
- 補聴器や人工内耳のトラブルを大人に伝える



水遊びのときはね…



難聴学級すみれ組では、教師や友達に自分の言葉で補聴器や人工内耳のことを伝えたり、自分の聞こえを伝えたりする機会を大切にしています。年中児・年長児は、プール開き前にみんなの前で話す時間を作ると「補聴器を外したら、聞こえんのんよ」「聞こえんくなったら電池交換するんよ」「人工内耳にカバーをつけると聞こえにくくなるから近くでしゃべって」など、自分なりの言葉で伝える姿がありました。

年少児は、人工内耳のカバーをつけるのは初めて！お兄ちゃんたちがつけるところを見せてくれて「いっしょ！」の手話をしながらおそろいのカバーを喜ぶ姿がありました。回数を重ねるにつれ「水遊びの時にはカバーをつける」ということがわかってきたようです。



学年ごとに伝えられることは違いますが学年が一つ大きくなるにつれて自分の聞こえについての認識が深まったり、それを表現できるようになったり、自分なりに伝え方を考えてみたりする姿があります。これからも自分の力で表現する姿を大切にかかわっていきたいです。